

目的 ファウンデーションの中でブラジャーは、少女から高齢女性に至る広い範囲の年齢層に着用され、着用率が最も高い。本研究は、4種のサンプルを用いて、試着テストによる着用感と衣服圧との関係を検討した。

方法 試着テストをブラジャーの適合サイズがB70、C70の被験者26名について、同一メーカーのカッティング及び構成方法が異なるサンプル3種を用いて行い、総合的着用感と不快と感じる部位について調査した。次に、衣服圧の測定を被験者9名について適合サイズサンプル4種を用いて行った。測定部位は図1に示す6点である。計測システムの受感部は、日本光電社製の脳圧カテーテルTM-200Tである。



図1 測定部位

結果 ①試着テストでは、B70の被験者では乳房の被覆面積が3/4カップのタイプ2種の着用感が良く、C70の被験者ではフルカップ型でワイヤレスのものが良い結果になった。不快を感じる部位は、ワイヤー入りではワイヤー部位に、ワイヤレスではトップの浮きが指摘された。②衣服圧の測定では、部位別にみると、自然呼吸では肩線上が15.13~29.42mmHgで最も高く、次は前腋窩線との交点（口点）で8.81~15.98mmHg, 3番目は肩甲線上で10.68~14.02mmHgである。胸式呼吸では、0.31~7.33mmHgの範囲で自然呼吸よりも高い値を示した。種類別では、ソフトワイヤーはどの部位でも最も高い値を示した。シームレスは肩甲線上では高い値を示したがその他の部位は最も低い。他の2種は部位別にバラツキがみられた。カッティングや構成方法の違いが衣服圧に影響しているのが認められた。